



ミニ  
情報

2021.8

## 猛毒をもつ「ハブクラゲ」

ハブクラゲは、初夏から秋にかけて沖縄や奄美地方の海に見られる熱帯性のクラゲで、箱型のカサと四隅からのびる長い触手が特ちょうです。触手に猛毒をもつことから、毒蛇の「ハブ」が名前の由来になっています。クラゲライブでは、7月15日から展示を開始しています。給餌や掃除をする際はゴム手袋をはめ、刺されないよう細心の注意を払い作業をします。猛毒をもつ危険なクラゲですが、長い触手をなびかせて泳ぐ姿はとても優雅です。

Kamogawa  
SEAWORLD